

う」で高かったのが、福祉・介護の**41.5%**（前回比**5.6**ポイント↓）、販売・売店の**37.5%**（前回比なし）、廃棄物関連の**37.5%**（前回比なし）であった（表39）。職場で本音が言える割合が高かった領域においても高い結果となったが、福祉・介護は前回より「かなり・だいたい話し合う」と「なんでも言える」割合が前回より上がったにもかかわらず、「自分の意見が反映された事業所運営になっている」と思う割合は減っている。また、全体的では「思う」・「思わない」・「分からない」が大体**3:3:3**になっている（表39）。

5. 事業計画作りへの参加と内容理解度

事業計画づくりで「参加・少し参加」の割合が高かった領域は、福祉・介護の**39.3%**（前回比**10.2**ポイント↓）、清掃・ビルメンの**32.4%**（同**2.5**ポイント↑）であった。福祉・介護は他の職種よりも参加率が高いものの、前回より**10.2**ポイントも減少している点が気になる。次いで公園・緑化の**28.4%**（前回比**7.1**ポイント↑）、給食の**22.7%**（前回比なし）、物流の**20.3%**（同**6.1**ポイント↑）、食品加工の**12.8%**（前回比なし）、販売・売店の**15.3%**（前回比なし）となっており、参加する割合は増えていることがわかる。販売・売店は話し合いが行われている割合が他よりも高かったが（表38）、事業計画づくりにおいては**84.7%**が不参加と答えた（表40-1）。

男女別では、男性の**34.5%**が「参加・少し参加」と答え（前回比**8.3**ポイント↑）、**20代・30代・40代**で4割を超えた。女性は**29.3%**が「参加・少し参加」と答えた（同**5.6**ポイント↑）。中でも**20代**の**45.3%**が一番高く、**30代**が**23.7%**、**40代**が**31.8%**、**50代**が**30.3%**、**60代**が**24.4%**、**70代**が**27%**であった。「少し参加」を含めても約**3割**の参加なので、実質的な参加はまだまだと言えらるだろう。

事業計画を理解している割合が低かったのは、食品加工（**19.2%**）、販売・売店（**23.1%**）、給食（**31.9%**）であった（表39）。ただ全体では「よく理解している・ある程度理解している」が**49.2%**（前回比**6.0%**↑）と半数近くになる（表40-2）。事業計画づくりにはなんらかの形で約**3割**しか参加していないが、半数近くが理解していることになる。「事業計画をほとんど理解していない（**34.9%**）」「読んでいない（**4.3%**）」「配られていない（**4.8%**）」は前回より微減した。

VIII. 組合員の自己研鑽、学習・教育研修について

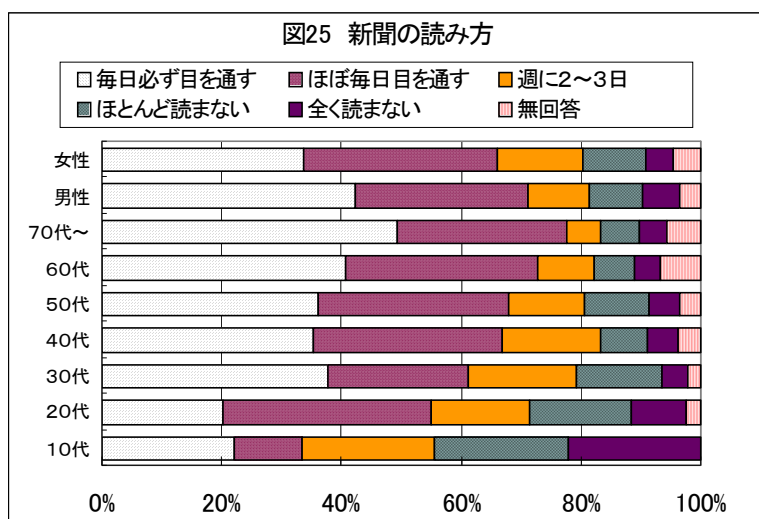
1. 習い事

「過去5年のうちで、習い事や教室、学校に通ったり、通信教育などを受けたことがあるか」という質問に対し、「はい」と答えたのが**33.3%**の**579人**であった。そのうち**468人**（**26.7%**）の人がその内容を答えている。**10代・20代前半**の**20名**の回答のうち、大学や専門学校での将来の為の習い事がほとんどで、**4万円以上**のものが多かった。**20代後半**以降でも実用的なものが多く、全体ではヘルパー講座を挙げたのが**178名**、パソコン関連を挙げたのが**77名**と目立った。お花や唄、スポーツなどの趣味を学ぶ人の割合は年齢が上がるにつれ増えていき、**20代**は**21.7%**、**30代**は**25.4%**、**40代**は**33.3%**、**50代**は**35.7%**、**60代**は**48.1%**で

あった。また、趣味を学ぶ人は実用に活かせるものを含め複数学ぶ傾向にあった。具体的な習い事の事例を別記2に記したので参考にさせていただきたい。

習い事にかかる月額費用は、5,000円以内が最多の130人、1万円以内が79人、1万5千円以内が46人、2万円以内が28人、3万円以内が39人、4万円以内が13人、そして4万円以上が102名もいた。過去5年間に習い事等を受けなかった人(1056人)に今後の勉強の意志を訪ねたところ、「思う」が38.8%、「思わない」が23.4%、「わからない」が22.9%であった。

2. 読書・情報収集・IT



新聞に「毎日必ず」「ほぼ毎日」目を通す人は67.6%（前回比1.9ポイント↓）、「ほとんど」「まったく」読まないが15%（前回比2.5ポイント↓）であった。男性は、20代が53.9%、30代が61.1%、40代が65.8%、50代で70.9%と年齢があがるほど新聞を読む率が高くなり、60歳以上ではほぼ毎日目を通す人が8割を超えた。女性は、40~60代が約67%、70歳以上では約70%で

あった(表41)。

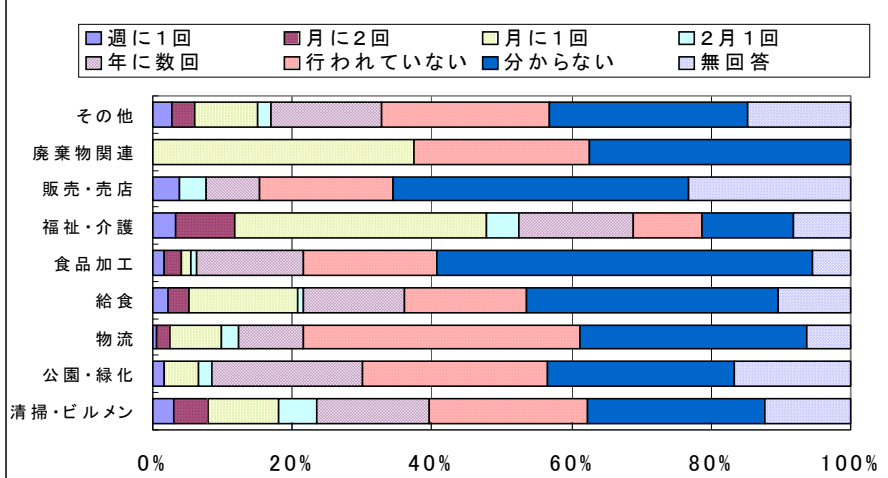
単行本や文庫本などの書籍は、月に1冊も読まない人が40.1%、1冊が24.5%であった。0冊と答えた人の割合は10代が22.2%、20代が34.1%、30代が37.7%、40代が36.2%、50代が43.9%、60代が41.1%、70代が40.4%と若い世代のほうが読んでいることがわかる。特に70歳以上女性は月に全く本を読まない人が54.1%と割合が高かった(表42)。

定期的に読む雑誌があるかについては、「ある」と答えた割合が若い世代ほど高かった。20代・30代の3~4割が「ある」と答え、50代以降は3割をきった(表43)。一日に読書に費やす時間は、30分未満が最も多く、40.4%にのぼった(0分は含まない)(表44-1)。「1日のインターネットに費やす時間」についての質問に対して、一日に数分でもインターネットを活用した人の割合は10代が77.8%、20代が66.7%、30代が60.1%、40代が36.9%、50代が27.2%、60代が19.5%、70代が16.8%と答えていることから、若い世代ではだいぶ普及し、それに伴い扱う情報が多くなっていることが読みとれる(表44-2)。

3. 学習会・教育研修企画への参加

事業所の学習会・研修会が年に数回以上行われているか開催頻度の認識を問うた設問では、

図26 事業所の学習会・研修会の開催認識



認識の割合を多い順に並べると、福祉・介護の68.8%（前回比3.0ポイント↓）、清掃・ビルメンの39.7%（同2.8ポイント↓）、給食の36.1%（前回比なし）、廃棄物関連の37.5%（前回比なし）、公園・緑化の30.1%（同15.2ポイント↓）、物流の

21.7%（同6.2ポイント↓）、食品加工の21.6%（前回比なし）、販売・売店の15.3%（前回比なし）であった。前回に比べ公園・緑化の減少率が目立つ。全体的には前回よりも5.9ポイント増えて44.1%となっている。研修会が行われているかが「わからない」と答えた人は全体で25.7%、前回より5.9ポイント減った（表45）。

事業所で行われている学習会・研修会に参加しているかの設問に対して、「必ず参加」が14.8%（前回比3.6ポイント↑）、「ほとんど参加」が18.3%（同0.2ポイント↑）、「2回に1回程度」が7.3%（同1.0ポイント↑）で、前回より微増した。参加率が一番高いのは福祉・介護で、「必ず」「ほとんど」「2回に1回程度」を合計すると62.1%（前回比2.2ポイント↑）にのぼった。他は4割以下で公園・緑化の40.0%（前回比5.3ポイント↑）、清掃・ビルメンの37.6%（同4.9ポイント↓）、廃棄物関連の37.5%（前回比なし）、給食の30.9%（前回比なし）、食品加工の22.4%（前回比なし）、販売・売店の15.3%（前回比なし）、物流の13.0%（同15.0ポイント↓）であった。物流の減少率が気になる。全体では10ポイント増の45.6%が参加している（表46）。

事業本部（ブロック）や全国（本部）の教育・研修に参加したことがあるかどうかの設問に対しては、事業本部主催で「ある」と答えた人が29.8%で前回より7.8ポイント増加した。全国本部主催では22.3%が「ある」と答え、前回より6.6ポイント増加した（表47）。

4. 労協新聞の認知活用度

「労協新聞をどの程度読んでいるか」の質問に対し、「毎号必ず読む」と答えた人は20.4%（前回比5.7ポイント↑）、「毎号関心のある所」が31.7%（同6.8ポイント↑）、「不定期関心のある所」が22.6%（同3.3ポイント↓）、「ほとんど読まず」が15.3%（同6.3ポイント↓）、「一度も読まず」が5.9%（0.9ポイント↓）となった。全体的には前回より読んでいる割合が増えたと言える。毎号目を通して読んでいる割合が高いのは、販売・売店61.6%、福祉・介護60.8%、清掃・ビルメン59.8%であった。食品加工の「一度も読まず」が39.2%と高かつ

た。男女別では、毎号目を通す女性が54.2%、男性が48.5%と女性のほうが高い結果となった(表48)。女性は「毎号目を通す」と答えた人が前回は37.1%だったにもかかわらず、今回は17.1ポイントも増えている。

しかし「労協新聞の活用」に関する設問については、「無回答」が全体で65.2%にのぼった。毎号読んでいる人の割合が高い福祉・介護でも活用していない割合が68.8%であった。活用別(複数回答)では、「団会議で読み合わせ」が9.6%(前回比3.8ポイント↓)、「毎号オーナーに届ける」が2.4%(同0.1ポイント↓)、「不定期にオーナーに届ける」が3.7%(同0.8ポイント↓)、「読者拡大の行動」が1.5%(同0.5ポイント↓)と前回より下回った項目が多かったが、「仕事拡大に活用」では7.0%と前回より3.5ポイント上回った。前回活用度が高かった清掃・ビルメンでは、今回は「団会議で読み合わせ」が14.7%(前回比5.3ポイント↓)、「毎号オーナーに届ける」が5.5%(同0.3ポイント↓)、「不定期にオーナーに届ける」が3.7%(同2.7ポイント↓)、「読者拡大の行動」が0.9%(同2.1ポイント↓)、「仕事拡大に活動」が6.0%(同3.0ポイント↑)となった(表49)

5. ホームヘルパーの資格、通信教育受講意欲

ホームヘルパーの資格は39.8%が持っていると答え前回より18.7ポイント増加、福祉・介護の領域で組合員が増えたことを表している。職種別では福祉・介護は86.7%(前回比4.2ポイント↑)の取得率で、次いで清掃・ビルメンの20.0%(同6.2ポイント↓)、給食の17.5%(前回比較なし)、物流の16.0%(同5.8ポイント↑)となっている。

そのうち、資格未保有者に更に質問し、ホームヘルパー2級の「通信講座」の受講意思について聞いたところ、「はい」の回答者が全体の8.7%(前回比5.7ポイント↓、未保有者の15.5%)、「いいえ」が全体の30.1%(同19.1ポイント↑、未保有者の53.9%)であった(表50)。

IX. 協同組合諸制度の認知度と協同労働について

1. 事業団の様々な制度の認識・認知度

【増資計画と出資】

約2ヶ月分の増資計画を立て増資しているかの質問には、「はい」が42.5%(前回比11.0ポイント↓)、「いいえ」が25.5%(同10.6ポイント↓)、「すでに達成」が14.6%であった。「すでに達成」という回答は前回には設けていなかったもので、ここ2~3年で出資者が増えたといえる(表51)。

【自立積立金、労働配当、CC共済の認知度】

これら3つの認知度は、「よく知っている」「ある程度」を足すと、自立積立金43.6%(前回比2.5ポイント↑) > CC共済27.3%(同7.8ポイント↑) > 就労配当22.5%(同1.3ポイント↓)で、CC共済の認知度が大幅にあがった。自立積立金の認知度に絞って職種別に比較すると、廃棄物関連の62.5%(前回比なし)、物流の54.3%(前回比9.9ポイント↑)、公園・緑化の45.0%(同3.0ポイント↓)、給食の41.2%(前回比なし)が高かった。認知度